



世界に希望を生み出そう



美馬ロータリークラブ

国際ロータリー2670地区 例会場 森友

出席報告

会員数	会場出席	ZOOM	欠席	メーカーアップ	修正合計	出席率
27	14	0	13	0	14	51.9%

2023-2024年度 第30回 例会プログラム

開会点鐘 19時 四つのテスト／我らの生業

ゲスト：徳島保護観察所長 磯久隆夫様 美馬地区保護司会 会長 森廣一様 坂出 RC 宮川崇様

会長の時間／幹事報告／委員会報告／卓話／スマイルボックス発表

会長の時間

日中は暖かいですが、その成果逆に寒暖差がひどく体調を崩す人が多いように思います。田村会員もコロナに感染したとLINEで書かれていましたが、皆様もご注意ください。先週の理事会にて能登半島地震の義捐金を幹事お手製の募金箱にてお願いすることになりました。今週、来週と回すことにしますので皆様どうかご協力お願いいたします。



幹事報告

到着週報 阿波池田 RC 鴨島 RC

- ・3月17日に地区研修・協議会がホテルクレメント高松にて開催されます。次期委員長の皆さんは出席義務がありますのでよろしくお願いいたします。
- ・3月30日徳島第Ⅰ・Ⅱ分区合同IMがホテルクレメント徳島にて開催されます。締切3月8日
- ・先週の理事会での決定事項を報告いたします。
 - ① 能登半島義援金は募金箱にてお願いする。

② 参加者がいないため zoom にての配信を止める。

委員会報告

特にありません

卓話（外部卓話）

磯久 隆夫様（徳島保護観察所長）



本日はこのような機会をいただきありがとうございます。保護司についてお話いたします。法務省の管轄で全国の都道府県、北海道だけ2つあるため50か所の保護観察所があります。その指揮下に置いて職務を行う非常勤国家公務員であり、経費は出ますが収入はないため更生保護ボランティアです。

事件数は昔に比べて減少傾向にあり令和3年には史上最少で56万件まで下がりましたが、翌、令和4年には20年ぶりに増加し、令和5年には70万件発生と2年連続で増加しています。主な犯罪としては街頭犯罪、つまり住居侵入などの犯罪や性犯罪が増えています。特に傾向として性犯罪の増加しており、その一因として相談窓口の整備により声をあげやすくなったのではという考えもあります。

こういった事件数の約3割が再犯者によるもので、その率は相当高いものと言えます。再犯者が再び犯罪を起こさないようにすることが重要と考え、その防止策として「生きづらさ」を感じさせないように寄り添った対策を進めていくことが昨年の第2次再犯防止計画にて盛り込まれています。その寄り添った支援を行う民間団体が保護司であります。

「保護」という言葉の意味は「助ける」「支援する」で「司」は平安時代、「国司」という役職があったように「役人」という意味で考えています。報酬はなしで非常勤の公務員として人の立ち直りを助けるのが仕事です。

保護司の職務は「保護観察を受けている人と面接を行い、指導・助言すること」「刑務所や少年院に入っている人の帰る先の生活環境を調節すること」「犯罪を予防するための啓発活動を行うこと」この三つになります。親元に基本的には返すのですが親元がない場合は施設を受けられるよう繋いでいかなければなりません。犯罪をしてしまった場所も地域社会であり、更生する場所も同じ地域社会であるため、どうしてもその人を排除してしまう傾向にあり、そのため再び犯罪に手を染めてしまいがちです。地域で更生を見守れるよう手助けをしていきます。任期は二年ですが再任して長く務めていただくことが多いです。

徳島県内には9地区の保護司会があり485名の保護司、そのうち27名が女性です。徳島県下の保護司の定数が506名のため96.5%の充足率で全国でも高い部類に当たります。そのうち美馬市保護司会は定数38名に対し35名ですのでこれも高い充足率です。

立ち直りを支える更生保護として「住むところ」、「仕事」、「相談する相手」、この三つが重要になります。これが備わっていないと、かなり再犯率が高くなってしまいます。円滑な社会復帰をするために重要な活動になります。月に2～3回ほど面接（保護観察）して指導支援していきます。

保護司の活動内容として「生活環境の調整」「保護観察」「犯罪予防活動」の三つがあり、講演会を開催したり地域活動をしたり幅広く地域の安全安心のために貢献しています。

保護司の数は長く減少傾向にあり年齢層も高くなり、女性率は上昇傾向にあります。職業別割合も無職の人が一番多く次は宗教家の人で大きく変わってきています。保護司の活動については知らない人が80%を超えていますが約60%の人が将来なってもよい、または関心を持っています。

保護司の魅力として犯罪や非行をした人の更生を支えることは社会にとって大切とか、安全・安心に地域づくりに協力できるという声があります。個人によって様々ではありますが「人の輪が広がった」「人との出会いの大切さを実感できた」とやりがいを感じてくれている人も多数います。

保護司に対して罪を犯した人の相手をするのは自信がないとの意見もありますが保護観察官と二人三脚で行うもので、一人で相手するわけではないですし、更生保護サポートセンターが設置されておりいろいろなアドバイスを受けることが可能です。美馬地区にも設置されており地区における更生保護活動の拠点となっています。美馬町市民サービスセンター三階にあります。

森廣一様（美馬地区保護司会会長）

私は36年前、脇町RCの丹羽さんに誘われて保護司を始めました。今、保護司会の会長をしています。美馬RCの会員では澤田さんと矢野さんが保護司として活躍されています。浪越さんの奥様は更生保護女性会美馬地区の会長をされています。美馬地区は犯罪者も少ないのですがそれも保護司の存在のおかげかもしれません。新しい人をどんどん探していきたいのでご紹介いただけるようお願いいたします。

宮川崇様（坂出RC）

保護司の若手として勉強させていただくため参加いたしました。都会とはまた違う保護司としての更生方法を勉強していきたいと思えます。私はロータリークラブの例会が終わってすぐ保護司として面接をしています。それほど負担でもなく父のような年齢の方から少年のような年齢の方までいろいろな人と面談しています。その人たちが社会にちゃんと戻れるようお手伝いをしていきたいと思えます。



スマイルボックスの発表

宮川崇会員

次回例会

2月20日 19時～

場所 森友

※出欠連絡は前日昼までに幹事までご連絡ください。